

「いろいろなかたち」評価規準表

＜本単元のねらい＞ 身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

単 元 の 評 価 規 準	時	評価場面（方法）	主 な 評 価 の 観 点	努力を要する状況の児童への指導の手立て
【算数への関心・意欲・態度】 ①身近にある立体に関心をもち、すすんで観察や構成などの活動をしようとする。 【数学的な考え方】 ①身近にあるものの形の特徴をとらえ、箱の形・筒の形・ボールの形を見つけることができる。 【数量や図形についての表現・処理】 ①身近にある具体物を用いて、立体を構成することができる。 ②身の回りにある立体を箱の形、筒の形、ボールの形などに分類したり、立体の面の形に着目して、まる、さんかく、しかくなどの形を認めたりすることができる。 【数量や図形についての知識・理解】 ①身の回りで立体がどんなところに見られるか、どんな特徴があるかということに着目することなどを通して、図形についての豊かな感覚をもっている。	1	・作りたいものを決め、立体を積んだり、重ねたりしながら構成する場面（構成活動・発言・作品） ・作品とその工夫を発表しあう場面（発言）	関①身近にある箱や缶などを観察したり、触れたりしながら、箱の形や筒の形の特徴や機能を生かしていろいろなものを作ろうとしている。 知①自分の作品やその工夫を箱の形や缶の形の特徴や機能にふれながら、説明することができる。	・作りたいものが決まらない児童や決まっても構成の仕方がつかめない児童には、例示した作品を見せたり、箱や缶を一緒にいろいろな配置で組み合わせたりして、作品のイメージを具体的にもたせ、活動を促す。 ・箱の形や缶の形の特徴や機能に気づくように、箱や缶を選んだ理由について発表させたり、構成活動中の児童の発言などを補足したりする。
	2	・積んだり、重ねる活動を通して、立体の特徴・機能をとらえる場面（構成活動・発言・作品）	考①表①箱の形や筒の形や積み木の概形や組み合わせを工夫して、高いタワーを作ることができる。	・高さや長さをだしたいときは、どのような形の積み木をどんな向きで使ったらよいのか、考えさせながら、積んだりつなげたりする活動を促す。
	3	・積み木の形を分類したり、形当てのゲームをしたりする場面（行動観察・発言）	表②形以外の属性（色、大きさ、材質など）を捨象して、その形の特徴をとらえ、箱の形、筒の形、ボールの形に分類できる。	・形の分類がうまくできない児童には、立体をいろいろな角度から見たり、角や曲面を手で触らせたりして、形の特徴を確認させる。 ・表現がうまくできない児童には、「たいら」「まるい」「かどがある」「ころがる」などのキーワードを提示し、表現を助ける。
	4	・積み木から平面図形を写し取り、これをもとにして絵をかく場面（構成活動・発言・作品）	知①表②積み木の面の形に着目して、まる、さんかく、しかくなどの形を認め、その形を使って身の回りのものの絵をかくことができる。	・身の回りのものが思いつかない児童には、ぶどう、おにぎり、窓などの単一形の絵をかきながら進め、友達と交流させながら、車や家などのいくつもの形を組み合わせた複合形にも取り組ませる。